

倒木が多くなってきた。小滝がいくつか出てくるが、いずれも何なくパス。ナメの傾斜がきつくなってきて、それが尾根近くまで続く。沢の水が無くなるすぐ手前で昼食。尾根にはすぐに上がった。(記。)

入溪点(8:50)——クラツ沢出合(9:05)——クロナ沢出合(10:05)——地神沢出合(10:35)——尾根(11:50)

地神沢(下降)

1982年9月19日

L

尾根から4分程下ると沢筋となる。下ってゆくとガレ場となり、そのすぐ下よりナメとなる。本流とはその先で合わさり、すぐ3つの小滝が出てくる。ナメは一時途切れるがすぐ再開。トチの実が落ちていて、実だけがはじき出され、岩のくぼみにたまっている。拾いはじめたら、5分程で8kgもとれた。おかげでザックはぐっと重くなる。

1.5mの小滝は何なく下る。ナメが続く。快適な下りだ。
2.5mの小滝も軽くパス。気持よくナメを下って、先ほど遡っていった二俣につく。今日の沢登りはこれでおしまい。あとはサルナシやマタタビをとりつつ、ゆっくりと下る。

(記。)

下降点(11:50)——下降終了(12:45)

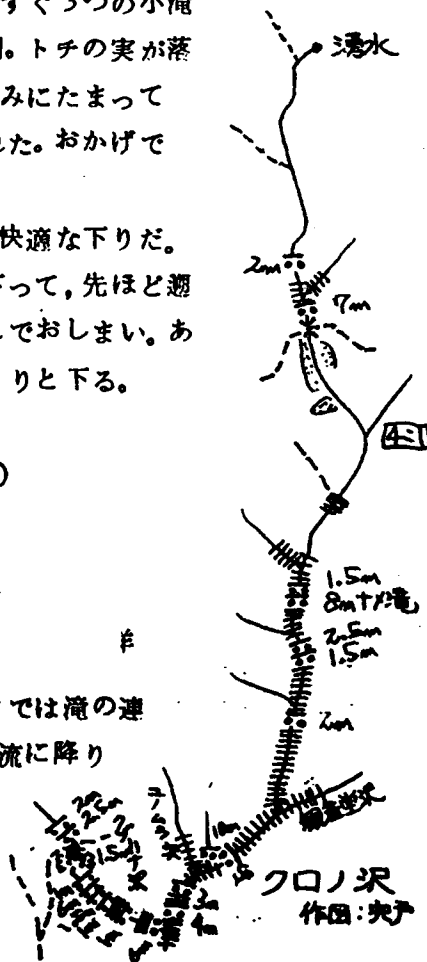
クロナ沢

1982年10月3日

L

クソハナ沢を下降して本流に出る。そこまでは滝の連続であった。最後に6m滝の左岸を捲いて本流に降り立つ。滝とナメの連続する本流を少し遡るとクロナ沢出合。今日の目的はこの沢だ。

倒木を越え、快適にナメを渡る。やがて



2mの小滝。直登する。この上もナメが続く。小滝2つを越えてゆくと、水量は少しだが、沢自体の感じは大きい小沢が合流している。まもなく8mのナメ滝。左側を直登。和泉さんがスリップして5mほどすべり台のように滑り止まる。すかさずわきにどいて見殺しにする。少しすりむいた程度。油断をしているとこういうこともある。もっとも、ここはわざとすべってみたい気さえおこしかねないような所である。すぐ上の小滝は何なくバスする。右岸から水量の少ない小沢が合流した所で、出合から続いていたナメも終わる。

沢が大きく左に曲がり、しばらくゆくと、まず右岸、続いて左岸にガレ場が出てくる。こんな所が何でくずれているんだろうと考えながら近づくと、何と林道工事をしているではないか。押し出された土砂で沢がうまり、「ズボ」とぬかる。ヒザから下はもうドロだらけである。

いったん林道に上がり、再び沢にもどって昼食。もう水量もずいぶんと少ない。

再び歩きはじめる。すぐに7mの滝。左を直登。勝なわを出して後続の2人を確保。上はナメ。小滝を越えると沢が逆S字に曲がり、しばらくして2俣となる。左はカレ沢。右に入るがすぐにかれてしまう。左岸にある湧水がこの沢の源のようだ。これで廻行終了。下降に移る。 (記

出合(10:25)——林道(11:30, 11:50)——
終了(12:25)

1982年10月11日
ユノムラ沢 L

カイトキ沢を下降して観音堂沢の本流に下る。ワラジをつけ、ユノムラ沢出合まで進む。途中、至る所でイワナの姿を見た。それも20cmクラスである。今は禁漁期間であり、イワナの方でも安心して姿を見せてくれるのだろうか。

ユノムラ沢に入るとすぐに4mの滝があり、右岸を直登。フリクションをきかせて登る。しばらくナメが続く。観音堂沢の流域は全体にナメが多いところの

